

巻頭言

天野 要

愛媛大学 工学部

愛媛大学工学部情報工学科の計算工学分野に所属しております関係で、「野田先生定年退職記念研究会」の実行委員会委員長を仰せつかりました。しかし、委員長とは名ばかりで、研究会の開催と論文集の発行は、副委員長の齋藤友克氏、プログラム委員長の野呂正行先生、実行委員の甲斐博先生、近藤祐史先生、白石啓一先生、山田宏之先生、阿萬裕久先生のご尽力によるものです。

まず、野田松太郎先生のご経歴とご業績を簡単に紹介させていただきます。先生は昭和44年大阪市立大学大学院理工学研究科博士課程物理学専攻を修了されました。ご専門は素粒子論であったと伺っております。その後、日本学術振興会奨励研究員を経て、昭和45年から35年間にわたって愛媛大学で教育・研究に従事して来られました。この間、情報処理学会平成4年度論文賞、Best Paper, 8th Asian Technology Conference in Mathematics 等を受賞され、日本数式処理学会会長、情報処理学会四国支部長/代表会員、日本応用数理学会理事/評議員等を歴任しておられます。大学の管理者としても、愛媛大学評議員、総合情報メディアセンター長等を歴任しておられます。先生はまた多くの人材を育成されました。この研究会の実行委員も全員が何らかの形で先生の指導を受けて来られた方々です。先生は、現在もお第一線の研究者として、総合情報メディアセンター長、愛媛大学大学院理工学研究科将来計画委員会委員長等として、多忙な日々を送っておられます。

さて、この研究会の最後には、総合情報メディアセンターのメディアホールで記念講演会「悪条件問題とハイブリッド計算」が予定されております。実は、私が先生のご定年に関係した講演会に参加させていただくのはこれで3回目です。1回目は、1月22日、同じメディアホールで開催された日本応用数理学会第8回環瀬戸内応用数理研究部会シンポジウムの特別講演「数値計算と数式処理の狭間で」でした。2回目は、2月15日、これもメディアホールで行われた最終講義「ハイブリッドに明け暮れて三十年」でした。ご講演の内容は数値計算を専門とする私にとっても非常に興味深いものでした。ご講演では、先生のこれまでの研究上の様々なエピソード、現在の大学が抱える課題に対する批評・提言等も伺うことができました。先生は「次の講演でも、同じ資料で同じ話はしない」と明言しておられます。今回はどんなお話が伺えるか、楽しみにしております。

最後に、先生はご定年後も海外での招待講演、国際会議の開催等の計画をお持ちであると伺っております。これからもお元気でご活躍下さい。時々辛口のお話も伺えることを期待しております。

(野田松太郎先生定年退職記念研究会実行委員長 天野 要)